

かお・人インタビュー

2015年12月15日(火)

<http://www.kensetsunavi.com>

富岡誠司所長に聞く

筑後川河川事務所

国土交通省九州地方整備局



北海道出身で全国各地を赴任してきたが、九州の地は初上陸、日本酒党で九州各地の飲み歩きや旧所名所巡りを楽しみにしている。大学時代に建設が進められた「青函トンネル」の壮大な物づくりに魅力を感じたのが国交省入省の動機の一つという新所長さん。筑後川河川事務所は福岡県・佐賀県・大分県の3県にまたがる筑後川、矢部川、嘉瀬川の広大な流域を管轄とし、平成24年7月の北部九州豪雨で甚大な浸水被害等が発生した。これら被害箇所の災害復旧と河川改修事業の高潮対策、洪水対策、地域住民の防災意識の向上などに取り組む富岡所長さんに話を聞いた

◎九州との関わりや印象はいかがですか

九州は初の勤務で、生活するのも初めてです。赴任後、暫くしてから知ったことですが、久留米藩主の有馬氏は、前任地だった兵庫県ゆかりの家柄（有馬温泉あたりの土地の出身）と知り、それから一段と親しみを感じるようになりました。また、事務所前の高野産八幡神社も有馬氏が篠山城（久留米城）の守護神とし

て大事にしていた神社ですが、事務所の守り神的な存在でもあり、不思議なご縁を感じています。

梅雨入りと同時に赴任したこともあります。今までの勤務地の中では雨が多い土地というのが第一印象です。



◎事務所の紹介と主要事業は

筑後川（流路延長143km）、矢部川（流路延長61km）、嘉瀬川（流路延長57km）の3水系を管理、福岡、佐賀、大分の3県に跨る広い管轄区域で、沿川の自治体は筑後川が福岡県の6市1町、佐賀県3市1町、大分県1市、矢部川が福岡県の4市、嘉瀬川が佐賀県の2市。流域面積は筑後川2,860km²、矢部川647km²、嘉瀬川368km²で、3河川の合計3,875km²に及んでいます。

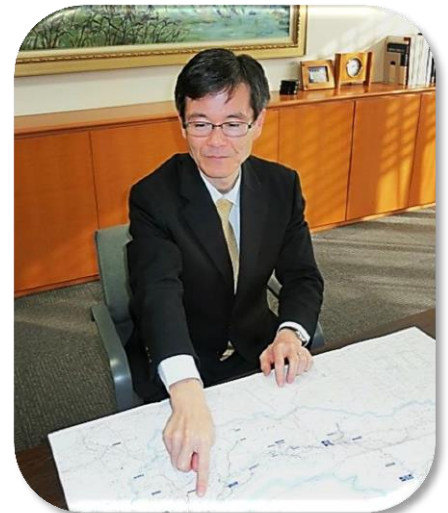
平成24年の九州北部豪雨災害対応として、矢部川及び花月川（筑後川支川）の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業と筑後川や矢部川河口部における高潮対策事業などがありますが、主な27年度事業では筑後川下流部の「大川市新田

（小保地区）」、「佐賀市早津江地区」、「佐賀市大宅間地区」、「佐賀市犬井道地区」、矢部川下流部の「柳川市中島地区」の高潮対策、筑後川下流部の「久留米市浮島地区」と中流部の久留米市「瀬ノ下」、「高野」、「木塚」、「北野」地区、上流部の「日田市高瀬地区」、筑後川支川の「城原川」、「巨瀬川」、「隈上川」、嘉瀬川の「佐賀市徳万地区」の洪水対策等があります。

また、直轄河川激甚災害対策特別事業では、筑後川支川の「花月川」と矢部川の洪水対策を行います。さらに、筑後川水系ダム群連携事業の基礎調査、城原川ダム事業の基礎調査などを実施します。

27年度予算（当初）は、筑後川などの河川改修費41億2,800万円、河川激甚災害対策特別

緊急事業費31億9,300万円、河川等大規模災害関連事業費4億4,380万円、河川工作物関連応急対策事業費8億5,900万円、河川総合開発事業費1億4,820万円、総合水系環境整備事業費1,100万円の合計87億8,300万円となっている。



◎事務所としての防災・減災対策は



平成24年の豪雨災害から間もないこともあり、防災・減災に対する職員や地域の自治体の意識は高いと感じています。今年9月の関東・東北豪雨をうけ、国交省として「避難を促す緊急行動」に取り組んでいて、現在、管内19の首長さん一人一人と順次トップセミナーをやっていますが、地域自治体との連携をさらに深め、いざという時に備えていきたいと思っています。

昭和28年の筑後川の大水害は、鬼怒川の水害を遙かに上回る被害がありました。今一度、その記憶を呼び起こして防災への意識を高めていけたらと考えています。

◎改正品確法に伴う事務所の取り組みについて

人材確保は、産・官・学が協力して取り組むべき課題です。具体的な取り組みとしては、インターシップの積極的な受け入れや現場見学会の開催などが必要だと思います。また、この業界にも女性の人材確保を進める必要がありますが、特に九州は「男社会」の印象が強く、色々な会議に出席しても女性

の数が少ないように感じています。

幸い、当事務所には九州地整初の女性出張所長をはじめ元気な女性職員も多い。事務所のためというよりも九州全体の建設業界のためにも幅広く活躍してもらいたいし、その活動を支援していきたいと考えてます。

◎地域建設業界などへの要望・メッセージ

地域建設業界は、地域の社会基盤整備や災害発生時の復旧・復興に欠かせない重要な存在であり、我々行政の大切な仕事のパートナーです。パートナーとして、特に今は人材確保という共に取り組むべき課題もあ

るので、お互いフランクに話ができる関係を構築していきたい、また、地域から信頼される業界としての健全な発展を期待しています。

◎これまでの赴任地の思い出は

土木屋として楽しかった思い出と言えば、中国地整の斐伊川・神戸川総合開発工事事務所長の時に志津見ダム、尾原ダムの2ダムの本体着工に向けて、付け替え道路の橋梁やトンネルなどの工事をどんどんやっていたことです。青森河川国道事務所長時代の大雪も思い出に残っていますが、北海道出身者の私でも驚くほどの大雪が降り、そんな中でも地域の生命線とも言

える幹線国道の機能確保の重要性を肌で学びました。

また、前任地の兵庫県では、丁度、阪神淡路大震災から20年の節目に立ち会うことになりました。短期間での大震災からの復旧・復興に大きく貢献した建設業の底力と役割の重要性を再認識させられましたが、現在の官と民の体制が、このような大災害にどれだけ対応できるのかということも考えさせられました。

◎趣味、特技、生きがいについて

趣味は「スキー」と答えているが、暫くご無沙汰中です。北陸、東北、兵庫などの酒どころを歩いてきたこともあり、お酒は日本酒党になりました。福岡・佐賀には想像していた以上に酒蔵が多く飲み歩きを楽しみにしています。

折角の初めての九州勤務。管轄エリアにこだわらず、各地の旧所名跡も訪ねてみたいと思っています。座右の名という程では無いが、「一期一会」。全国を渡り歩いてきたこともあります。人との出会いを大切にしながら仕事に取り組んでいきたいです。



富岡 誠司(とみおか せいじ)

中央省庁等 国土交通省 九州地方整備局事務所 筑後川河川事務所長
1961年7月26日 54歳 男 出身地：北海道
1984年北海道大学工学部卒業
出身団体 1984年建設省

【経歴】

2004年4月 国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所長
2007年4月 愛知県建設部河川課長
2009年4月 独立行政法人水資源機構中部支社副支社長
2012年4月 国土交通省官房付
2012年8月 兵庫県理事(技術担当)
2015年6月 国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所長

